道の駅米沢は、10月5日(金)（開業から169日目）に来場100万人を達成しました。これからも引き続き、多くの人にご来場いただけるよう創意工夫していきます。

さて、皆さんは、まちナビカードをご覧になったことがあるでしょうか。館内中央の無料休憩所（24時間開館）特設コーナーにおいて、置賜3市5町の観光施設や店舗などの情報を掲載したハガキ大のカードを展示しています。このまちナビカードを持って対象店舗に行くと、お得にサービスを受けることができます。常時100種類程のカードが並んでおり、見ているだけでワクワクします。

本市は置賜地域と山形県の玄関口に位置していて、道の駅米沢はゲートウェイ型の道の駅として整備されました。ゲートウェイとは「門」という意味ですが、この駅に来ていただいたお客様が置賜地域や県内に周遊していく拠点になるよう様々な工夫がされています。その1つがまちナビカードです。

また、まちナビカードは利用者だけではなく、カードを発行する店舗にもPR効果が期待されます。このカードなどによって、地域交流が盛んになるよう励んでいきます。

常時100種類程のカードが並ぶ

米沢偉人伝 13

Hisanaga Irobe

色部久長（1825 － 1868）

※人物写真はありません。

今月は、上杉メモリアルフェスタで顕彰されている偉人の1人、色部久長を取り上げます。

◇◇◇◇◇◇◇ エピソード1 名門色部家の出身、戊辰戦争で戦死

色部久長は、文政8年（1825）、篤長の嫡子として生まれました。通称である「色部長門」としても知られます。色部家の祖先である修理進勝長は、上杉まつり川中島合戦で上杉方の軍奉行としてお馴染みの武将です。色部家は侍組に属し、代々奉行職（国家老）や江戸家老などの要職を務めた名門でした。

久長は藩校興譲館で学び、家督を継ぐと、江戸家老、奉行職を務めます。慶応4年（1868）に戊辰戦争が始まると、奥羽越列藩同盟に与した米沢藩の総督（総司令官）として越後へと出陣し、新潟で新政府軍と対峙しました。新潟では民政に力を注ぎ、新潟港や市井における治安の安定に貢献、新潟の民衆から深く感謝されたといわれます。しかし、新政府軍が大挙して新潟を攻撃すると、久長は奮戦しますが、最後は壮絶な戦死を遂げました。44歳という若さでした。

戊辰戦争の「叛逆首謀」の汚名を一身に背負った米沢藩の総督

◇◇◇ エピソード2 叛逆首謀の責任と後世の顕彰

戊辰戦争は新政府軍の勝利に終わり、明治新政府は列藩同盟に与した東北諸藩に「叛逆首謀」の責任者を届け出るよう命じました。米沢藩では議論の末、戦死した久長を責任者として届け出ます。色部家は家名断絶となり、千坂高雅や甘糟継成など重臣たちの処分は免れました。久長1人が米沢藩の戦争責任を一身に背負い、死してなお米沢藩に尽くしたと評される所以です。

その後、昭和7年に新潟市関屋の戊辰公園（久長の戦死地）内に、昭和34年には米沢市市制施行70年記念事業の一環で旧上杉伯爵邸（上杉記念館）敷地内に、久長を偲ぶ「色部長門追念碑」がそれぞれ建立されました。ともに現在に至るまで碑前祭が営まれており、顕彰活動が続いています。久長への尊敬の念は、新潟と米沢の地に今もなお深く根ざしているのです。

色部長門追念碑